

事例番号：270007

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第六部会

1. 事例の概要

経産婦。妊娠37週4日、妊産婦は破水のため入院となった。入院時の胎児心拍数陣痛図はリアシュアリングであった。破水から17時間後に陣痛発来となり、陣痛開始後5時間で子宮口全開大となった。子宮口全開大後の胎児心拍数陣痛図では反復する一過性徐脈が認められた。発露の時点で分娩監視装置を終了し16分後に児が娩出された。臍帯巻絡が頸部に1回あり、羊水混濁はなかった。

児の在胎週数は37週5日、出生体重は3200g台であった。臍帯動脈血ガス分析値はpH7.29、BE-4mmol/Lで、アプガースコアは生後1分、5分ともに1点であった。出生時、筋緊張、啼泣はなく、妊産婦の胸の上で背部と足底刺激が行われた。生後3分、開放型保育器に移動しバッグ・マスクによる人工呼吸、胸骨圧迫が開始された。NICU医師到着後生後36分に気管挿管が行われ、生後52分の血液ガス分析（足底）はpH6.7、BE-22mmol/Lであった。生後19日の頭部MRIでは、脳幹および大脳基底核の障害が示唆される所見であった。

本事例は診療所における事例であり、産科医1名と助産師2名が関わった。

2. 脳性麻痺発症の原因

本事例における脳性麻痺発症の原因は、分娩中の胎児低酸素・酸血症により低酸素性虚血性脳症を発症した可能性と、出生後の低酸素状態の持続が低酸素性虚血性脳症を発症した可能性の両方が考えられる。胎児低酸素・酸血症の原因は、具体的に何が起こったのかを特定することは困難であるが、臍帯圧迫による臍帯の血流障害が起こった可能性がある。

3. 臨床経過に関する医学的評価

妊婦健診は一般的である。

入院後に分娩監視装置を装着し、胎児心拍数が正常であることを確認したことは一般的である。分娩第Ⅰ期に間欠的胎児心拍聴取間隔が135分空いていることは一般的ではない。分娩第Ⅱ期に徐脈が出現している状況で連続的胎児心拍数モニタリングを終了したことは一般的ではない。子宮収縮波形が記録されないまま経過観察したことは医学的妥当性がない。反復する一過性徐脈が認められるが、医師に報告しなかったことは基準から逸脱している。妊産婦の体位変換を行い胎児蘇生法を試みたことは一般的である。胎児心拍数波形が正しく判読されない状況で分娩監視装置を外し、医師に立会い依頼の連絡を行うことなく、助産師のみで分娩を行ったことは医学的妥当性がない。臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。

分娩直後に児の筋緊張がなく啼泣のない状態で早期母子接触を行ったこと、児を妊産婦の胸の上にのせた状態で刺激を行ったこと、直ちに医師に報告しなかったことは医学的妥当性がない。呼吸を確立する前に経皮的動脈血酸素飽和度モニターの装着を優先していることは一般的ではない。直ちにNICUに連絡したこと、新生児搬送したことは一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

(1) 胎児心拍数陣痛図の評価と対応について

本事例では、分娩経過中に異常波形が認められたが連続モニタリングは行われなかった。胎児心拍数陣痛図の判読と対応を「産婦人科診療ガイドラインー産科編2014」に沿って習熟することが望まれる。

(2) 分娩監視装置の装着について

胎児心拍数陣痛図上、子宮収縮波形が記録されていない場合は、正確に記録されるよう、分娩監視装置を正しく装着することが望まれる。

(3) 新生児の蘇生法について

日本周産期・新生児医学会が推奨する新生児蘇生法ガイドライン2010に則した適切な処置を実施できるよう、分娩に立ち合うスタッフすべてが研修会の受講や処置の訓練を行うことが望まれる。

(4) 胎盤病理組織学検査について

胎盤病理組織学検査は、その原因の解明に寄与する可能性があるため、感染や胎盤の異常が疑われる場合、また重症の新生児仮死が認められた場合には実施することが望まれる。

(5) B群溶血性連鎖球菌（GBS）スクリーニング検査について

「産婦人科医診療ガイドライン」では、妊娠33週から37週での実施を推奨しており、ガイドラインに則して実施することが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

特になし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

新生児蘇生法の習得について

新生児蘇生法については、分娩に携わるすべての産科医療関係者が蘇生法の知識と技術を習得することが重要である。そのために、産科医療関係者が新生児蘇生法を十分に習得できるよう、必要な講習会研修会への参加を促すことが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

特になし。